

私のいちおし本 「絶望名人 カフカの人生論」

フランツ・カフカ 著／頭木 弘樹 編訳



選者：銀河アリーナ 西蘭 博香

「すべてお終(しま)いのように見えるときでも、まだまだ新しい力が湧き出てくる。それこそ、お前が生きている証なのだ。」

この言葉は、「変身」などの作品で有名な小説家カフカの言葉になります。前向きでポジティブな言葉ですが、これには続きがあります。

「もし、そういう力が湧いてこないなら、そのときは、すべてお終(しま)いだ。もうこれまで。」彼は生きている間、作家としては認められず、保健局に勤めながら作品を執筆していました。そんな彼が残した日記やノートは、日常生活の愚痴で満ちています。

仕事に絶望し、不眠症に絶望し、家族との関係に絶望し…誰よりも落ち込み、誰よりも弱音を吐いた「絶望名人」の彼の言葉だからこそ、その絶望に共感したり、ネガティブ過ぎる言葉にかえって笑えてきたりするかもしれません。

ネガティブな思考にどっぷり浸かりたい時にも、元気な時に読んで、あまりのネガティブさに笑い飛ばすのもオススメの一冊です。

今月の新刊

【銀河アリーナ図書室】

【一般】

あrika

瀬尾 まいこ 著

母親との関係に悩みながらも、一人娘のひかりを慈し育てる、シングルマザーの美空。義弟で同性のことが好きな颯斗は、兄と美空が離婚した後も、何かと二人の世話を焼こうとするが…。「子育てをしながら自分が受けた恩を思い知って、親に感謝していくのだと思っていた。それが親になった途端、さっぱりわからなくなった。この日々のどこに恩を感じさせるべきところがあるのだろう」人々のかけがえのない関係性を紡ぎ続けた瀬尾まいこが描く、あなたの小さな、でも確かな支えとなる感動の物語!



【文化センター図書室】

【一般】

願わくば海の底で

額賀 滯著

東北地方沿岸部のとある高校。そこで起こるささやかな謎の中心には、いつだって彼がいた。そして、2011年の“あの日”、菅原晋也は私たちの前から姿を消した。これは、彼が過ごした、高校3年間の軌跡の物語。



【児童】

オムライスだいすき

荻田 澄子 ぶん／いわさきまゆこ 絵

だいすきだいすき、オムライス。いっしょに作ろう。ピーマン、玉ねぎ、とり肉を切ろう。とんとん。フライパンでじゃつといためて…。オムライスができるまでを、心がおどるようなオノマトペとおいしそうなイラストで描く絵本。



【児童】

さいこうののらねこシルバー

ケイト・クライス 文／M. サラ・クライス 絵

ある雨の朝、ダフィーさんはホテルの裏口で、おなかをすかせているねこを見つけました。ねこはホテルのスタッフたちにかわいがられ、ねこのコンテストに出ることになり…。アメリカの実話をもとにしたお話。



その他の新刊

【一般】リーダーの言語化

木暮 太一 著

それいけ! 平安部

宮島 未奈 著

【児童】パンダのおさじとせっけんパンダ

柴田 ケイコ 作

おやつにだいへんしん!

marupon さく・え

その他の新刊

【一般】いまずぐ防犯 闇バイト強盗、特殊詐欺、盗難から身を守る

佐々木 成三 著

そういえば最近

寺地 はるな 著

【児童】鳥のなかま&分類・系統図鑑

小宮 輝之 監修

アンパンマンとえんぴつじま

やなせたかし 作・絵